

【学会賞受賞記録】

	氏名	所属	掲載号	備考
2024年度(令和6年)	寺内 公一	東京科学大学大学院医歯学総合研究科 茨城県地域産科婦人科学講座		中高年女性の睡眠障害:その病態と管理
2023年度(令和5年)	岡野 浩哉	飯田橋レディースクリニック	31-3	臨床とエビデンスのはざまであがく日々
2022年度(令和4年)	牧田 和也	牧田産婦人科医院	30-3	更年期医学の継承と慢性頭痛への女性医学の立場からのアプローチ
2021年度(令和3年)	樋口 毅	弘前大学大学院保健学研究科 看護学領域	29-3	更年期以降に関心事となる疾病における予測因子の探索
2020年度(令和2年)	小松 浩子	日本赤十字九州国際看護大学	28-3	女性のクオリティ・オブ・ライフの向上をめざした看護研究
2019年度(令和元年)	大道 正英	大阪医科大学 産婦人科学教室	27-3	女性のトータルヘルスケアを目指して
2018年度(平成30年)	林 邦彦	群馬大学大学院 保健学研究科	26-2	日本ナースヘルス研究と女性のライフコース疫学
平成29年度(2017年)	北脇 城	京都府立医科大学大学院 女性生涯医科学	25-2	女性医学からみる子宮内膜症
平成28年度(2016年)	矢野 哲	国立国際医療研究センター	24-2	内分泌学的観点からみる女性医学
平成27年度(2015年)	苛原 稔	徳島大学大学院 医歯薬学研究部 産科婦人科学分野	24-1	女性ヘルスケアのための生殖内分泌研究の意義
平成26年度(2014年)	久保田 俊郎	東京医科歯科大学 医歯薬学総合研究科 生殖機能協関学	23-1	女性のヘルスケアに関する基礎的・臨床的研究
平成25年度(2013年)	倉智 博久	山形大学医学部産婦人科	21-2	エストロゲンとメタボ関連疾患
平成24年度(2012年)	堂地 勉	鹿児島大学医学部産婦人科	20-3	加齢や閉経による体脂肪分布や体組織成分の変化と骨塩量の相互の関連性
平成23年度(2011年)	対象者なし			
平成22年度(2010年)	茶木 修	横浜労災病院産婦人科	19-2	骨粗鬆症の治療と管理における骨代謝マーカーの有用性
平成21年度(2009年)	尾林 聡	東京医科歯科大学 医歯薬学総合研究科 生殖機能協関学	18-1	ヒト子宮動脈における動脈硬化の発症・進展・防御機構に関する検討
平成20年度(2008年)	対象者なし			
平成19年度(2007年)	高松 潔	東京歯科大学医学部産婦人科	16-1	日本人女性の更年期障害における精神的症状に関する検討
平成18年度(2006年)	倉林 工	新潟市民病院	15-1	骨粗鬆症のハイリスク群のスクリーニング方法の検討
平成17年度(2005年)	安井 敏之	徳島大学病院周産母子センター	14-1	閉経後女性における内因性エストロゲンおよびホルモン補充療法における エストロゲン濃度と代謝に関する研究 -HRTの個別化に向けて-
平成16年度(2004年)	石塚 文平	聖マリアンナ医科大学産婦人科学教室	13-1	・早発閉経の病因、病態、治療に関する研究 ・日本人女性の更年期症状に関する疫学的研究
平成15年度(2003年)	若槻 明彦	高知大学医学部周産母子センター	12-1	心血管疾患のリスク低下を目的としたこれからのホルモン補充療法
平成14年度(2002年)	後山 尚久	大阪医科大学産婦人科学教室	11-1	性中枢老化機構と不定愁訴の発症機序に対する基礎的・臨床的アプローチおよび 中高年女性の健康管理における全人的医療としての研究とその対策
平成13年度(2001年)	五來 逸雄	横浜市立大学医学部産婦人科	10-1	閉経後日本人女性の骨密度の変化の予知と閉経後骨粗鬆症発症に関与する遺伝 的因子に関する研究
平成12年度(2000年)	野崎 雅裕	九州大学	9-1	閉経による血管系の変化及びその機序に関する研究
平成11年度(1999年)	小山 嵩夫	小山嵩夫クリニック	-	更年期医学会の歩みとこれからの更年期外来
平成10年度(1998年)	水沼 英樹	群馬大学医学部産婦人科	7-1	閉経後骨量減少の自然史に関する研究とその対策
平成9年度(1997年)	大藏 健義	獨協医科大学越谷病院産婦人科	6-1	エストロゲン補充療法が脳機能に及ぼす影響に関する研究 -記憶、脳血流、アルツハイマー病とエストロゲンとの関連について-
平成8年度(1996年)	太田 博明	慶應義塾大学医学部産婦人科学教室	5-1	エストロゲン低下によって惹起される骨粗鬆化の病態像の解析 -卵摘例を中心とした各種骨塩定量機器及び骨代謝マーカーを用いた検討-